



## 着色期のウンシュウミカンを加害する ハナアザミウマの防除対策

和歌山県果樹試験場 まつやま 松山 なおき 尚生・かんだい 勘代 ひろふみ 博文\*

### はじめに

近年、本県の露地栽培ウンシュウミカンでは、着色期に果皮表面が白くカスリ状になる被害が発生している(図-1)。症状が激しい場合は加害部が褐変し果実が腐敗することから、商品価値の低下や収量の減少につながる。果皮表面が白くカスリ状となる被害はネギアザミウマやミカンキイロアザミウマ、ハナアザミウマ、ビワハナアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ等によるものが報告されている(森ら, 1984; 土屋ら, 1995; 寺本ら, 2001; 土屋, 2002; 衛藤ら, 2010; 東浦・村本, 2018)。本県では、アザミウマ類の黄色粘着トラップによる誘殺状況や着色期の果実における生息状況を調査した結果、主な加害種はハナアザミウマ(図-2)であることが確認された。

そこで、本研究ではまず、ウンシュウミカンにおける本種の誘殺消長や果実での生息状況、本種の生息が多いと報告されている圃場周辺のセイタカアワダチソウや(寺本ら, 2001)、圃場内の雑草における生息状況を調査した。そして、カンキツにおいて本種に使用できる各種薬剤の殺虫効果と圃場における防除効果を検討した。

### I ハナアザミウマの発生状況

調査は有田市千田(面積:約10a, 品種:‘上野早生’(極早生), 平坦地, 周辺は住宅地)および有田郡有田川町下津野(面積:約40a, 品種:‘上野早生’, ‘ゆら早生’(極早生), ‘向山温州’(中生), 平坦地, 周辺はカンキツ圃場と住宅地が混在しており雑草地と隣接)の2箇所のウンシュウミカン栽培圃場で行った。

#### 1 黄色粘着トラップによる誘殺消長

本種のウンシュウミカン圃場内への飛来状況を明らかにするため、2018年4月から圃場内に黄色粘着トラップを設置し誘殺数を調査した(松山・勘代, 2021)。有



図-1 果皮表面の被害



図-2 ハナアザミウマ雌成虫

田市千田, 有田川町下津野とも9月下旬から本種の誘殺が増え始め, 10月中旬に誘殺数が最も多くなり, 11月に減少する傾向が認められた(図-3)。

#### 2 果実における生息状況

2019年に本種のウンシュウミカン果実での生息数を調査した(松山・勘代, 2021)。調査は有田市千田では‘上野早生’, 有田川町下津野では‘ゆら早生’と‘向山温州’で行った。圃場内で任意に選んだ果実20果よりアザミウマ類成虫を捕獲し, 本種の成虫数を計数した。その結

Control of *Thrips hawaiiensis* (Morgan) Harming on Ripe Fruits of Satsuma Mandarin. By Naoki MATSUYAMA and Hirofumi KANDAI

(キーワード: ハナアザミウマ, ウンシュウミカン, セイタカアワダチソウ, 発生状況, 薬剤)

\*現所属: 一般社団法人和歌山県農業会議